

昭和60年度 名古屋大学教育学部心理教育相談室活動報告

I はじめに

昭和60年度より当相談室は文部省により特別施設として認められ、相談活動における有料化とともに相談室の名称も「臨床心理相談室」から「心理教育相談室」と改めた。また、相談室の運営面においても、従来は教育心理学教室の臨床系教官を中心に行われてきたものから、「名古屋大学教育学部心理教育相談室内視」を定め、教育心理学科、教育学科の両学科の教官委員を含めた学部水準の運営に変わった。

相談員の構成は教官4名、事務職員2名、指導員4名、大学院生8名、大学院研究生3名、学部研究生10名の31名である。

なお、本年度より蔭山助教授が着任し、相談室長として新相談室の運営にあたった。

II 相談活動

本年度は相談活動に対する有料化実施の初年度にあたり、前年度よりの継続ケースの混乱や新規ケースの減少など心配されたが、表1に示すように大きな混乱もなく60年度を過すことができた。むしろ新規ケースは58年度、59年度と比較して約30ケース増の107ケースに達してい

る。

本年度の新規受理ケースの年齢、性別は表1に示した通りである。本年度は新システム採用年でもあるので、前年度の資料も比較のために示しておいた。59年度は小学生以下のケースが過半数を占めていたが、今年度は中学生以降のケースが急増している。

月別の受付状況、主訴の内容はそれぞれ表2.3.4に示した通りである。月別の受付傾向や学童期以前のケースの主訴内容は59年度と比較して変化はない。しかし、思春期以降のケースでは神経症水準のケースが急増している。

III リサーチ・カンファレンス

60年度のリサーチ・カンファレンスは、計10回行われた。主題と話題提供者の一覧は表5に示されている。本年も外部から、横浜市立大学の伊藤隆二先生、愛知医科大学の大原貢先生から話題提供をうけ、多くの人の参集をみた。しかしながら、例年の問題ではあるが若いスタッフの発表がみられず、残念なことであった。次年度からは、リサーチ・カンファレンスに症例を発表し、そしてそれをまとめて、教育学部紀要および相談室紀要に投稿されんことを期待したい。

表1 59・60年度新規受理件数

年 度	性 別	就学前Ⅰ (0～3)	就学前Ⅱ (4～6)	小 学 生 (7～12)	中 学 生 (13～15)	高 校 生 (16～18)	大 学 生 (19～)	成 人	計
五 九 年 度	男	4	10	9	4	8	1	2	38 (48.1)
	女	3	3	15	3	4	2	11	41 (51.9)
	計	7 (8.9)	13 (16.5)	24 (30.4)	7 (8.9)	12 (15.2)	3 (3.8)	13 (16.5)	79 (100)
六 〇 年 度	男	2	6	13	11	9	6	11	58 (54.2)
	女	1	2	4	9	10	5	18	49 (45.8)
	計	3 (2.8)	8 (7.5)	17 (15.9)	20 (18.7)	19 (17.8)	11 (10.3)	29 (27.1)	107 (100)

表2 59・60年度月別受付状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
59年度	2	7	4	13	4	4	7	10	7	6	10	5	79
60年度	4	8	7	19	6	5	11	9	10	5	5	8	107

昭和60年度名古屋大学教育学部臨床心理相談室活動報告

表3 学童期以前（12歳以前）の主訴・主症状別インテーク件数

主訴・主症状	59年度	60年度
登校拒否	5	5
自閉傾向	5	3
精神発達遅滞	6	5
場面かん黙	5	3
夜尿		2
チック音	5	1
吃音	2	1
抜毛	2	1
いじめられ	2	1
集団不適応		
盗癖		
学業不振		3
その他	12	3
計	44	28

表4 思春期（13歳～）以降の診断別インテーク件数

診 断	59年度	60年度
神経症	12	58
境界例	7	5
心身症		2
精神病	1	4
その他	15	10
計	35	79

表5 昭和60年度 リサーチ会議演題一覧

第1回	4月19日	養護教諭の行う相談活動	愛知教育大学	中尾道子氏
第2回	5月17日	自閉的聴覚障害児の自我発達 ——10年間のかかわりを通して——	名古屋大学	蔭山英順氏
第3回	6月28日	非行少年の時間的展望について ——家庭裁判所の調査面接において——	名古屋家庭裁判所	橋本和明氏
第4回	7月19日	学校精神衛生の展開にむけて	三重県立朝明高校 名古屋大学	伊藤三洋氏 池田博和氏
第5回	9月19日	ある青年との面接過程 ——第2の分離一個体化をめざして——	名古屋大学 (コメンター)松蔭病院	長野郁也氏 渡辺雄三氏
第6回	10月18日	精神療法過程における行動化と共時性	八事病院 (コメンター)同朋大	高橋昇氏 江口昇勇氏
第7回	11月29日	「白雪姫」をめぐる	名古屋大学	鶴田和美氏
第8回	12月20日	治療教育から文明論へ ——私の研究主題——	横浜市立大学	伊藤隆二氏
第9回	1月24日	自己視線恐怖の1少女の10年間の歩み ——箱庭、文通などを通しての一考察——	愛知医科大学	菅佐和子氏
第10回	2月21日	症状とその意味	愛知医科大学	大原貢氏